

**彼れを知り  
己れを知れば、  
百戦殆うからず。**

(かれをしりおのれをしれば、ひやくせんあやうからず)

**彼れを知らずして  
己れを知れば、  
一勝一負す。**

(かれをしらずしておのれをしれば、いっしょういちぶす)

**彼れを知らず  
己れを知らざれば、  
戦う毎に必ず殆うし。**

(かれをしらずしておのれをしらざれば、たたかうごとに  
かならずあやうし)

—モヤシからのメッセージ—

これは『孫子』(そんし)という、中国の兵法書(軍学の書)の一節である。孫武(そんぶ)の作とされている。孫武は中国の春秋時代(紀元前770年、周の幽王が犬戎に殺され洛邑(成周)へ都を移してから、晋が三国(韓、魏、趙)に分裂した紀元前403年までの動乱の時代)の思想家である。

その意味を手元の「中国古典名言集」(諸橋轍次, 集英社)から抜き書きしてみると次のように書いてある。

「敵情を知り、同時にわが力をも知る場合は、戦いに敗れることはない。敵情を知らず、ただ自軍の実情だけを知って戦うとき、勝敗は半々である。自軍のことも知らずして戦う者は、戦いのたびに敗亡の危険をとまなう。」

さて、戦う受験生のみなさん、あなたの敵は「受験」である。

「彼れを知る」とは、入試の傾向を知ることであり、毎年どんな問題が出るかを知ることであり、どの分野が出題されやすいかを知ることであり、高校の面接ではどんなことが聞かれるかを知ることであり、受験勉強とはどんなことをしたらいいかを知ることであり、受験のためにはどんな生活をしたらいいかを知ることである。

では「己れを知る」とはどういうことだろう。

それは、学力について自分の実力を知ることであり、各教科の自分の弱点を知ることであり、自分の得意な分野を確認することであり、今自分はどんな勉強をしているのかを確認することであり、今自分はどんな生活をしているのかを確認することである。

そして戦えば、すなわち日々こうすればいいのだという勉強をし、こうすればいいのだという生活をすれば「百戦殆うからず」となる。

「百戦殆うからず」とは受けた入試はみな合格するということである。

さて、今のみんなはどうだろう？

「彼れを知らずして己れを知れば、一勝一負す。」すなわち、入試のことはまだあまり研究していないが、自分自身の弱点や、勉強方法のまずさはわかるので、とりあえずそれを克服するよう学習をしている。そんな人は勝敗は半々である。こんな人はあとは、さらに弱点克服のために自分をみがくことを忘れず、「もやし」の「し」、すなわち「手段を研究して、実行」すればよい。

だが、「彼れを知らず己れを知らざれば、戦う毎に殆うし。」という人はいないだろうか。自分自身の勉強方法の弱点もつかんでいないし、「こんな勉強をしなさい。」と言われても、それを実行していない。

何をしたらいいかもわからないし、今の自分の現状を把握もしていないので、弱点もわからない。

これでは入試のたびに不合格である。

そうならないために、まず自分のことを知ることだ。

自己分析をすることだ。

自分の勉強法の欠点を知ることだ。

これが大切なのである。

どんなときにもまず自分のことを知ること。これが始まりである。

そして、自分のための勉強法を確立すれば、

# 百戦殆うからず

である。